

芭蕉元祿事業 奥の細道むすびの地「大垣」十六万市民俳句ポスト

平成二十六年七月度 入選句（投稿総数二千百三十八句・一般投句数五百二十六句）

特選

選者 伊藤 百雲

千枚の植田呑み込む山の影 栃木県宇都宮市 加茂 都紀女

千枚の植田とは「段々畠・千枚田のこと。句の景は夕方で山国の日入りの早さを思はしむる。日入りが早く山の影が田植が終ったばかりの段々畠を日影にしてしまった景を作者は「呑み込む」と表現したところ巧く面白い。

毛虫踏むおかしき程の力にて 大垣市 川瀬 幸子

「おかしき程の力」どれ程の力か読者に一任しよう。面白い表現で相手が毛虫だからなおさらである。毛虫への恐怖心と憎悪感が隠されていて簡単ながら深味を感じる句。

大夕焼鳥影赤く吸はれゆく 不破郡垂井町 西垣 和志

美しく大きな句に仕上っている。夕焼だけから赤いに決っていると云われればそれまでだが句には吸はれるとあるから救われている。夕焼が赤が赤で終る訳ではない。

秀逸

裏山に眼白を放ち転勤す 愛知県尾張旭市 古賀 勇理央

伊吹嶺へ道まつすぐや麦の秋 大垣市 安田 直隆

一撃に筍青き音残し 不破郡垂井町 北村 廣美

艶やかにくるりと脱げし竹の皮 福井県敦賀市 山田 美千代

台風の去った青空まぶしいな 大垣市 永島 みすゑ

七夕に夢は大きく書く園児 不破郡垂井町 高木 しげ乃

噴水の止みたる空のすぐ乾く 大垣市 矢橋 郁子

夜濯や背番号なきユニフォーム 大垣市 渡邊 一光

病室の窓少し開け植田風 大垣市 片山 洋紅

蟻の列数へて数の定まらず 大垣市 澤井 国造

入選

医者に行くだけの男の衣更
リハビリに鯉のたゝき少し酒
はたた神軍師馬上の合戦図
ぎやまんの風鈴の音あんパン屋
三伏や限界集落墓標朽つ
手をつなぎ二人でくぐる茅の輪かな
欲しいもの何ひとつなき端居かな
魔除けの矢放つ山伏滝びらき
黒堀の濡れも卯の花腐しかな
断崖や夏鶯のしきりなる

東京都世田谷区	関戸信治
大垣市	多和田一徳
大垣市	田中雅子
岐阜市	伊藤瑞実
羽島郡笠松町	易田英明
大垣市	田林文江
福井県福井市	三ツ山しげ子
大垣市	森川きよ子
大垣市	新町恵子
愛知県名古屋市	岩田勇

入選

跳ねる尾を残し蜥蜴の失せにけり
蓮の葉に水玉風にこぼれさう
西日入る鏡で会話美容院
古き佳き街並残し氷旗
山梔子の香のやさしくて風のあり
味噌蔵の黒き板塀夏つばめ
麦秋やどっぷり美濃に住みつきて
岐れてはつながる小径ほととぎす
桃切りぬ落つる雫もこぼさじと
塩加減良き空豆の青さかな

大垣市	尾関逸子
大垣市	岡田あや子
大垣市	宮脇和子
岐阜市	嶋めぐみ
静岡県静岡市	内藤知
大垣市	安部芳枝
大垣市	早崎美弥子
大垣市	日比野友子
不破郡垂井町	川瀬慶泉
不破郡垂井町	竹嶋富美子

選者吟

夏の夢太鼓叩いて目覚めけり

伊藤 百雲